

121

ピンチをチャンスに変える **老舗探訪** 東海企業ウォッチング

太田商事の始まりは江
戸時代中期、徳川幕府4
代将軍の家柄に遡る。
一和菓園ののれんを掲

刈谷藩御用達から画期的な会社組織へ

「酒造業としてスタート的な組織で、当時トト。その後、刈藩」として画期的な「完」の御用達となり御用達 した(太田田舎) 泉合資会社の「御」を創業した。 明治維新を経て、18 、「信用」で事業を展開 97年に「合資会社」を設立。地元「指折」から株式会社が発展する 買戻だつた。太田家の土 地の基盤を固めた。後 地を整理、運営する近代 地の御所の展開や本ビ

太田商事

一六五五年創業

刈谷市



刈谷藩の御用達前のごころから保全している庭園

ルの建設などレの仕組みが有効に機能し、現在ソルと全体の資産の9割を泉合資会社が保有する組織を築き上げて、産業界への貢献を期して、当時主要な接い商品だった油と金物は統制を愛けた。1917年からは書き続けた戦の40年か、たが業「概」が戦の7年間で完全空白になった。ところが当時を築いて。 たは終戦との情勢も一転、太田商事は再び「商いの白田」を手に入れ、祖業から事業を転換させた歴史を築いていった。

「保守7割、革新3割」発展の芽は祖業に

地域のニーズに応え
変化し続けるDNA



1951年ごろの本店 (現刈谷市銀座)

「有為翁は世の謂い」え、(太田社長)が根拠として、老舗を呼にあり、その姿を具現ばれる業の多も変化 化したのが現在の同社の歴史を築いている。太、祖業を扱っていた歴史が35年以上の 金物、油、紙などが変化 歴史も様々に「保守」 例え金物は、建築向 例え紙は、印刷用紙の卸・販売事業転換を必要とされた。

は鋼材やサッシなどは扱う粗事業に発展させた。その後、(総合建設)から建築工事を請負う事業に乗り出し、現在の方事業の100%を占めている。 まいどはガリ印や紙はガリ用2連用紙、紙はガリ用1連トペーパーや業務印刷用紙の卸・販売事業転換を必要とされた。

社長 **太田 啓一さん**
「今の歴史は、泉合資会社の存在抜きに語ることができません。泉合資会社の遺産DNAが300年、歴史を繋いでこれ理由に考えています。」
と信を基盤として、その資産で未だに能く事業を展開してきたためです。」
また当時の家柄に「5」



「これら積極的な事業展開を果たしている同社だが、3年間赤字を続けた事業からは引退してきた(合田社長)。変化して「信用」を手を重んじ、風土は現在も残っている。」

年商売が順調でも変化を要する。 「地域に必要とされる商品、サービスを手掛けています。」
「当社は地域密着型の企業として、地域に必要な商品、サービスを手掛けています。」
「今も地域のニーズに応え続け、変化し続けていっています。」